

えんど久子県議らが県議会で求めてきた

保健所の職員が増員されます

保健師4人と事務9人増

猿渡（えんど）久子県議は、9月の県議会や決算特別委員会などで、コロナ対応で多忙な保健所の正規職員の増員を強く求めてきました。

4月から保健所の職員が計13名増員されることになりました。大分県の4保健所（東部・豊肥・西部・北部）に正規の保健師を各1名ずつ増員することです。さらに、9カ所（6保健所＋3保健部）に事務職員（正規）を各1名ずつ増やします。

また、クラスター発生時の保健所業務を支援体制として、今年2月から、市や県のOBの保健師・看護師の協力を得る体制を作りました。

中小業者への支援策の拡充を

「緊急事態宣言が出た地域では1日6万円の協力金があるが、それもなく不公平では。仕入れ業者や従業員のことを考え店を開けてランチやお弁当などがんばっているが厳しい」「持続化給付金は5割も減収したらつぶれてしまう」「地元の店はつぶれてしまい、県外資本のチェーン店ばかりになるのでは」との声が寄せられています。

3月4日の県議会の質疑で、えんど久子県議はこの声を紹介し、国や県の支援制度を受けられない中小業者への新たな支援策を求めました。

知事は、現状の制度を説明し、2月末の全国知事会で事業者への支援について提言したと述べました。



岩手県ではコロナの影響を受ける飲食業者や宿泊業者などに1店舗40万円の支援金を支給する独自策を打ち出したことなどを述べ、質問するえんど県議
21. 3. 4. 大分県議会

切実な声に応じて支援策を

えんど県議は「知事が説明した事業では支援が届いていない方がいるから、その方への支援をくり返し求めている。飲食業のみなさんは、自助努力では到底耐えられないと訴えている。この切実な声に応えるべきだ」と、えんど久子県議は重ねて求めましたが、前向きな答弁はありません。

この問題は、他の議員も一般質問で取り上げました。今後とも力をあわせてがんばりましょう。

日本共産党 県政ニュース

発行 日本共産党大分県議団
大分県議会議員 えんど久子

TEL・FAX 097-537-2344

No.50

2021.3.9.

放課後児童クラブの 待遇改善を

えんど久子県議は、自身が3年程前まで学童保育で働いていたことに触れながら、9月16日、県議会的一般質問で放課後児童クラブの支援員さんの待遇改善を求めました。えんど県議は、まず保健所などの県職員や医療・福祉関係のみなさんのコロナ禍の努力に感謝を述べ、質問に入りました。

ほとんどが時給のパート的雇用

「コロナ禍で、医療、介護、障がい者福祉、保育、放課後児童クラブなどのケア労働はどんな時にもなくてはならない仕事であるということが明らかになった。しかし、これらの仕事は、高い専門性を求められるにも関わらず日本では重視されず待遇が悪く人材確保が難しい。私が特に粗末に扱われていると感じているのが、放課後児童クラブの支援員だ。ほとんどがパート的な時給での雇用で、収入の面から若者の就職先にはなりえないのが実態で、長年の課題だ」と、えんど久子県議。

責任者などは安定した収入に

えんど久子県議は、「少なくとも放課後児童クラブの責任者を含む2名は安定した収入と待遇が得られるようにすることが必要だ。それが質の向上につながる。待遇改善を国に働きかけてほしい。また、県として、市町村に対して待遇改善を進めるよう、運営主体としての役割をしっかりと果たすよう、強力に支援することが必要だ」と主張しました。



「コロナ禍で子ども達は不安を抱え、学びの格差が深刻だ。感染防止のためにも少人数学級に」と、えんど久子県議。一貫して少人数学級を求めています。

2020. 9. 16.
県議会本会議場にて

処遇改善は重要な課題と答弁

福祉保健部長は「支援員の処遇改善は重要な課題だ」と答弁。キャリアアップの処遇改善について説明し、130クラブに月32000円などの加算を助成したことや、国にも働きかけていることを説明。「市町村が行う支援員の処遇改善に向けた取り組みをしっかりと支援する」と答弁しました。

えんど県議は、大分県放課後児童クラブ連絡協議会の会長さんのご意見や、連絡協議会がコロナ禍で実施したアンケートに保護者の感謝の声があふれていることを紹介し、重ねて待遇改善を求めました。今後ともみなさんと力をあわせてがんばります。